

ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業検討委員会 東京事業部会について

J E S C Oでは、7月14日に、専門の知識と経験を有する学識経験者で構成されるポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業検討委員会東京事業部会（主査：永田勝也早稲田大学工学部教授）を開催し、東京PCB廃棄物処理施設からのPCBを含む排気の排出事故についてご検討いただきました。

検討の概要

5月25日から26日にかけて発生させた微量のPCBを含む排気を排出させる事故について、その経緯、原因、事故発生を受けた改善計画、その実施状況等について説明をいたしました。

委員からは次のようなご指摘がありました。

オンラインモニタリングについて

- ・ 排気のオンラインモニタリングで警報が発報した場合に、施設外に漏らさないことを第一に考えて、インターロックをかけるということであるが、負圧管理など施設全体の安全性についてよく検討すること。また、インターロックにおいて従来の停止プロセスと矛盾がないかについて検討すること。
- ・ 今回の排気の事故はオンラインモニタリングを実施していたから判明したことであり、その効果については確認できた。設備改造において全体としてどのようなデザインとするのか、メンテナンス頻度、妨害物質による影響と対策、設定値等含めて検証し、見通しを立てること。

いずれのご指摘の事項についても、J E S C Oでは、オンラインモニタリングを用いたインターロック・システムの導入に際して検討を行っていく予定です。

緊急時の対応について

- ・ いずれの事故も特殊な状態で起こっており、警報が出たときなどの異常状態を的確に判断できる体制が大事である。現場判断に任せるのではなく、施設全体を理解し判断できる人材を配置した方がよい。

J E S C Oでは、東京事業所、運転会社の体制の強化策を講じてきておりますが、ご指摘いただいた点を踏まえて教育・訓練等の改善対策を実施していく予定です。